

# 医療法人 青山病院 2025プラン

平成31年 2月 策定

【青山病院の基本情報】

医療機関名：医療法人 青山病院

開設主体：医療法人

所在地：〒489-0986  
愛知県瀬戸市南山町一丁目53番地

許可病床数：89床

（病床の種別）一般44床 療養45床

（病床機能別）急性期44床 慢性期45床

稼働病床数：89床

（病床の種別）一般44床 療養45床

（病床機能別）急性期44床 慢性期45床

診療科目：内科、胃腸科、循環器科、腎臓・透析内科、整形外科、外科、小児科、  
アレルギー科、リハビリテーション科、放射線科

職員数：137名

- ・ 医師：11名
- ・ 看護職員：62名
- ・ 介護職員：24名
- ・ 専門職：28名
- ・ 事務職員：12名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(人口の見通し)

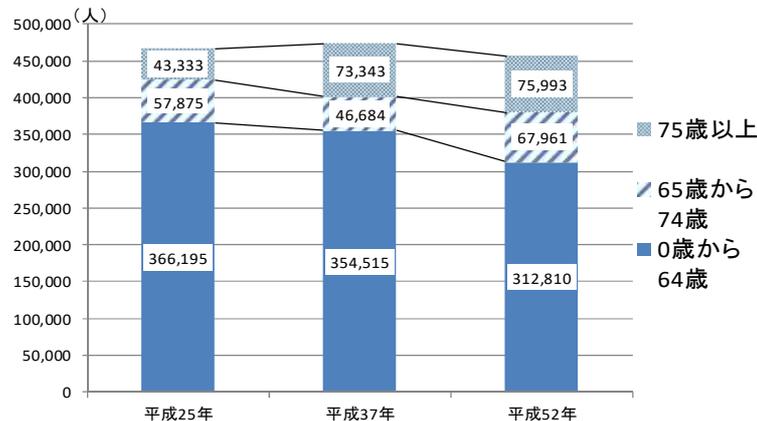
- 総人口は、平成 37 年(2025 年)には微増し、平成 52 年(2040 年)には微減します。65 歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっています。

<人口の推移>

※ ( ) は平成 25 年を 1 とした場合の各年の指数

区 分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
尾張東部	467,403 (1.00)	474,542 (1.02)	456,764 (0.98)	101,208 (1.00)	120,027 (1.19)	143,954 (1.42)	43,333 (1.00)	73,343 (1.69)	75,993 (1.75)

<尾張東部構想区域>



(医療資源等の状況)

- 大学病院が2病院あり、救命救急センターも3か所整備されています。人口10万対の病院の一般病床数や精神病床数、医師数や看護師数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富です。
- DPC 調査結果 (DPC 調査参加施設：4病院) によると、構想区域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病 (急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害) 及び高齢者の発生頻度が高い疾患 (成人肺炎・大腿骨骨折) の入院実績があることから、区域内に急性期入院機能を有していると考えられます。
- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC 調査データに基づく緊急性の高い傷病 (急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷) の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられます。
- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成 28 年 3 月現在、構想区域内 (3病院) において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料 (ICU)・新生児特定集中治療室管理料 (NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料 (MFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料 (HCU)・脳卒中ケアユニット入院医療管理料 (SCU)・新生児治療回復室入院医療管理料 (GCU) の届出がされています。
- 平成 25 年度 (2013 年度) NDB データに基づく特定入院料の自域依存率は高い状況にあります。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	尾張東部②	②/①
病院数	325	18	—
人口10万人対	4.4	3.9	88.6%
診療所数	5,259	309	—
有床診療所	408	30	—
人口10万人対	5.5	6.4	116.4%
歯科診療所数	3,707	226	—
人口10万人対	49.9	48.4	97.0%
病院病床数	67,579	5,914	—
人口10万人対	908.9	1,265.3	139.2%
一般病床数	40,437	3,788	—
人口10万人対	543.9	810.4	149.0%
療養病床数	13,806	781	—
人口10万人対	185.7	167.1	90.0%
精神病床数	13,010	1,295	—
人口10万人対	175.0	277.1	158.3%
有床診療所病床数	4,801	331	—
人口10万人対	64.6	70.8	109.6%

区 分	愛知県①	尾張東部②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	1,534	—
人口10万対	197.9	328.2	165.8%
病床100床対	20.3	24.6	121.2%
医療施設従事歯科医師数	5,410	319	—
人口10万対	72.8	68.2	93.7%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	787	—
人口10万人対	141.6	168.4	118.9%
病院従事看護師数	36,145	3,440	—
人口10万人対	486.1	736.0	151.4%
病床100床対	49.9	55.1	110.4%
特定機能病院	4	2	—
救命救急センター数	22	3	—
面積(k㎡)	5,169.83	230.14	—

(入院患者の受療動向)

- 各機能区分で、おおむね 20%前後の患者が名古屋医療圏に流出しています。また、名古屋医療圏からの患者の流入も多くなっています。

<平成 25 年度の尾張東部医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張東部医療圏	高度急性期	61	*	*	211	*	*	*	*	*	*	0	*	*	272
		22.4%	—	—	77.6%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%
	急性期	136	*	*	661	*	*	*	11	*	11	0	*	*	819
		16.6%	—	—	80.7%	—	—	—	1.3%	—	1.3%	—	—	—	100.0%
	回復期	174	*	*	448	*	18	*	12	*	36	0	*	*	688
		25.3%	—	—	65.1%	—	2.6%	—	1.7%	—	5.2%	—	—	—	100.0%
慢性期	130	*	*	380	0	11	*	26	*	16	0	*	*	563	
	23.1%	—	—	67.5%	—	2.0%	—	4.6%	—	2.8%	—	—	—	100.0%	

<平成 25 年度その他医療圏から尾張東部医療圏への流入院患者の受療動向>

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
尾張東部医療圏	高度急性期	154	*	*	211	*	23	34	21	*	29	*	*	*	472
		32.6%	—	—	44.7%	—	4.9%	7.2%	4.4%	—	6.1%	—	—	—	100.0%
	急性期	414	*	*	661	*	51	77	49	22	70	*	13	12	1,369
		30.2%	—	—	48.3%	—	3.7%	5.6%	3.6%	1.6%	5.1%	—	0.9%	0.9%	100.0%
	回復期	270	*	*	448	*	32	51	36	15	47	*	11	*	910
		29.7%	—	—	49.2%	—	3.5%	5.6%	4.0%	1.6%	5.2%	—	1.2%	—	100.0%
慢性期	117	*	*	380	*	24	*	39	*	49	*	*	11	620	
	18.9%	—	—	61.3%	—	3.9%	—	6.3%	—	7.9%	—	—	1.8%	100.0%	

② 構想区域の課題

- 大学病院が2病院あり、ドクターヘリ事業の基地病院がある等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との連携体制を維持していく必要があります。
- 回復期機能の病床を確保する必要があります。

### ③ 自施設の現状

- 医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が、地域における自らの立ち位置を把握するため、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが必要。
- 自施設の現状として、自施設の持つ設備・人材などの医療資源や、地域において現在果たしている役割等について記載。

#### (記載事項例)

- ・ 当院は創立以来「思いやり」を基本精神に掲げ、地域一般病院として主に瀬戸・尾張旭地区の亜急性期から慢性期医療、及び透析医療を行っています。救急告示病院（第1次救急医療施設）。総病床数は89床で、急性期機能を担う一般病棟44床と慢性期機能を担う医療療養病棟45床の2病棟。届出入院基本料は、それぞれ急性期一般入院料7（平均在院日数：18.9日、病床稼働率：93.8% ※2018年実績）、地域包括ケア入院医療管理料2、療養病棟入院基本料1を取得。
- ・ 急性期病棟では急性期の患者から回復期、慢性期の患者まで、様々な状態の患者が混在している。
- ・ この地域において入院治療が必要な透析患者の受け入れ先としての役割を担っている。

### ④ 自施設の課題

- 各医療機関が、地域において今後担うべき役割を検討するに当たり、地域ごとの課題を踏まえ、自施設の持つ課題を整理することが必要。
- 自施設の課題について、①～③の記載事項を踏まえて整理し、記載。

#### (具体例)

- ・ 尾張東部構想区域には高度な医療、救急医療を支える大学病院2カ所をはじめ高度急性期機能を担う地域の基幹病院が多く存在します。しかしその一方で、特に急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる回復期機能の病床不足が課題となっています。
- ・ 地域で不足する回復期機能を提供する病棟の整備に向けて、当院の役割を再検討する。
- ・ 現行の急性期病棟は一定程度維持する必要があるが、院内の機能分化を推進し、当病棟の役割の明確化と規模の適正化を再検討する。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 急性期医療を終えた脳血管疾患および大腿骨頸部骨折などの患者を積極的に受け入れ、集中的にリハビリテーションを提供し、在宅復帰をめざす。
- ・ 地域の基幹病院からのポストアキュート機能を強化し、国の推進する地域包括ケアシステム構想の一翼を担っていく。

③ 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の地域一般病院としての急性期機能は維持しつつ、地域の基幹病院からのポストアキュート機能を強化すべく、回復期機能を提供する病棟の整備について検討する。

④ その他見直すべき点

- ・ 訪問診療等の在宅医療の推進。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	44床		29床
回復期			19床
慢性期	45床		41床
(合計)	89床		89床

<(病棟機能の変更がある場合) 具体的な方針及び整備計画>

- ・ 尾張東部構想区域に不足する回復期機能を提供するため、急性期と慢性期の一部病床を回復期に変更する。
- ・ 現在当院では増改築工事を実施しており、回復期機能を含めた病棟機能の再編及びリハビリテーション室の拡大・強化を計画中。

<年次スケジュール(記載イメージ)>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合意形成に向けた協議</li> <li>○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定)</li> <li>○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る</li> </ul>	
2019～2020年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な病床整備計画を策定</li> <li>○施工業者の選定・発注</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2019年度中に整備計画策定</li> <li>○2020年度中に着工(・現病棟の担う機能は一時的に他の病棟で補う)</li> </ul>	
2021～2023年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>○2022年度末までに                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新病棟稼働</li> <li>(・旧病棟廃止)</li> </ul> </li> </ul>	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

⑤ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：93%
- ・ 患者入院予定数：83名

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率：61%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.1%

その他

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)